

2022 (令和4年) 2月1日発行

発行者：大阪府釣りインストラクター連絡機構 本部：〒544-0013 大阪市生野区巽中4-19-19 tel 06-6364-4156 (編集責任者：広報部 田隅)

新たな活動に向けて

新しい年を迎え、気持ちも新たに動き出したとたん新型コロナウイルスのオミクロン株騒動になってしまいました。

今年のフィッシングショーも、昨年に続きネット配信のバーチャルな展示会になったようです。

ですが自然の中で密を気にすることなく遊べる「釣り」は人気で、釣り場によって休日には人で溢れている現状です。

当然、駐車やゴミに始まりマナー違反が多くなり役所への苦情も多くなっています。

大阪市内で地下鉄で行ける貴重な釣り場のコスモスクエア釣り開放区も、近隣の住民からの苦情が大阪市に多数寄せられているようです。

大阪府釣りインストラクター連絡機構代表

綿井良隆

友好団体として会議に参加している日本釣振興会から、まずはこの地区の現状を調査してほしい旨の依頼がきています。

大阪市として万国博覧会に向けて、特に港湾の安全と美観に注力していく方針とも聞いており、非常に大事な調査報告事業になるものと考えています。

この件は総会での決議ができ次第に、進められればと考えております。

まだまだ不安な現状ですが、会員諸氏の健康と活躍を期待しております。 本年も、よろしくお願いいたします。



報告 1

大阪南港魚釣り園護岸

釣りビギナーをサポート

年間を通じて行う活動の一つに、大阪南港魚釣り園護岸の巡回や初心者への釣り指導があります。



令和3年も日曜日や土曜日の午前中にサポートを実施。新型コロナウイルスの影響で閉園期間があった中、令和3年は4月以降年間で19回、のべ36名の釣りインストラクターが活動に参加協力しました。

この魚釣り園護岸には、安全柵やスロープ・通路があ

り車椅子での釣りも可能です。また、子ども用ライフジャケットの無料貸出や貸竿、簡易な釣具、軽飲食の販売もある手軽な釣り場として人気です。大阪府内はもちろん、奈良県や京都府などからも、多い時は1日5百人、年間2万5千人以上が訪れ、それぞれ釣りを楽しみながら親子のコミュニケーションや友人同士で親睦を深めておられます。

昨年は、サバが好調でした。釣りの醍醐味は、魚との「やり取り」ですが、ビギナーのサビキ仕掛けに複数の魚が掛かると「仕掛け絡み」があちこちで発生するなど大変。その対応なども含め、充実した活動ができました。

ビギナーや家族連れが多いこの釣り場でこれからも、釣りの楽しさはもちろん、ルールやマナー、小型魚の再放流やゴミ問題なども知ってもらい、資源保護とSDGs、命の尊さを考えてもらえるようなサポート活動を続けたいと思います。

まだ参加されたことのない釣りインストラクターのみなさまも体験されればきっと、大きな充実感を得られると思います。

(報告 室井)



JOFI大阪の活動とSDGsの取り組み

釣り人一人ひとりにもできることは数多くあります。2030年の世界を変え、その先の未来に引き継いでいくために、SDGsを特別なものとしてではなく、「自分ごと」として、それぞれの活動や、生活に浸透させることが大切です。



釣り技術の伝承・普及

- ・釣り教室
- ・魚拓教室

地球(釣り場)環境保全

- ・海岸清掃
- ・釣り場調査
- ・水質調査

水産資源の保護

- ・水産資源保護
- ・稚魚放流
- ・生物一斉調査

報告 2

公認釣りインストラクター大阪講習会と試験を開催(R3-3/21)

令和2年度、大阪で行われた公認釣りインストラクター講習会と試験は当初令和2年の12月13日(日)に開催を予定していましたが、新型コロナウイルスまん延防止等緊急事態宣言のため令和3年1月10日(日)へ変更、再度3月21日(日)に変更し、ヒューマンアカデミー大阪心斎橋校を会場に受験者16名での開催となりました。

講習会と試験等の実施内容が前回までは日程を2日間で行っていましたが今回から、1日で実施出来るように改定されました。受験者は、受付時にマスク着用の確認と検温、手の消毒を行い会場に入場。

講習会は主催元の一般社団法人全日本釣り団体協議会専務理事、綿井良隆氏の挨拶から始まり、水産庁沿岸遊漁室釣り人専門官小川一人様から「釣り人に関連する法規・漁業関係の改定内容」を主題テーマとして「遊漁のルールとマナー ～海と川、魚との付き合い方」クロマグロの資源管理について「遊漁の現状」「遊漁におけるクロマグロ採捕量調査」「現在の取り組み」「今後の対応」また、「新たな資源管理の推進に向けたロードマップ」最後に罰則が強化された

「沿岸密漁の対策について」等について、遊漁者である我々に影響のある講義が90分行われました。

休憩後、JOFI大阪と奈良の活動状況を紹介、試験に合格されたら、各県のJOFIに加入し、釣り文化の継承や自然保護活動を一緒に取り組んでいただけるよう依頼。

釣りインストラクターの心得として「釣り文化の継承と釣り指導の知識」をJOFI大阪事務局長物部胤三氏から60分の講義。

前回から大きく変わった所は、講習会場で行っていた基本的な釣り具の歴史と進歩等「釣り具の知識」や「海釣りの概論」及び「内水面の釣り・流水域と止水域」等の学習を、受講を申請された方に教科書を送付し、受講者は送付された教科書により事前予習を行い、講習会と試験を受講していただくことになりました。

13時から14時の学科試験について小川俊幸インストラクターから詳細の説明後試験を実施。休憩後、論文試験を開始。議題に対して60分一杯の時間をかけて、自分の釣りに釣り組む姿勢や釣りインストラクターへの期待感を用紙一杯に意見を書かれていました。

プログラム最後の、実技を含む面接試験が行われ、時間をかけて受講生一人一人と向き合った丁寧な面接を実施し、令和2年度の釣りインストラクター試験を終了することができました。(報告 西谷)



報告 3

『大阪湾クリーン作戦』に参加(R3-6/6)

日本釣振興会が主催し毎年数回、複数の会場で、釣り場清掃が行われる『大阪湾クリーン作戦』。今回JOFI大阪が担当する、北港舞洲の夢舞大橋下の釣り場清掃に5名が参加。当日の天候は曇り空、集合場所の駐車場へは30分前に到着。集合までには多少時間があつたので、駐車場前の釣り場で、多くの釣り人が釣りを楽しんでおられるのを見学。サビキ釣り、遠投浮き仕掛けで釣りを楽しんでいる釣り人等色々、時々ワイシを釣りあげている家族連れも。

集合時間が近づいたので

ライフジャケットを付け集合場所の夢舞大橋下へ。主催者の開会の挨拶後、ゴミ袋、軍手をもってゴミ収集の開始、私たち5人の持ち場は夢舞大橋下の側道。

道路わきの樹木の下や草むらにはペットボトルや空き缶がちらほら、数年前に比べると放置されたごみは少なくなったように思うが・・・。一方釣り場の清掃を担当されたグループはたくさんのゴミ(袋にまとめて手すりに結んで放置されたものを含め)で大忙し。

10時過ぎに釣り場の清掃も終了し、収集したゴミを夢舞大橋下へ、その後集合写真を撮影し解散。(報告 田隅)



第40回大阪湾稚魚放流事業に参加 (R3-8/26)



日本釣振興会大阪府支部主催の稚魚放流に、インストラクター5名が参加。このイベントは、大阪湾に「チヌの海を再生したい」と1983年から、全国に先駆けて実施、今年で40回目になります。

今年は㈱アーマリン近大からチヌ10,000尾、(公財)大阪府漁業振興基金栽培事業場からはキジハタ4,000尾、瀬戸活魚センターからは、ガシラ8,000尾の提供を受けました。チヌは8月18日(水)に事前放流済みとのことで、今日はガシラとキジハタのみの放流。

毎年のことですが、放流開始までの時間で付近の清掃作業を実施、釣り人の捨てたペットボトルやマキエのナイロン袋等のゴミもありましたが、今回は家庭生活用品や雑誌等が多く見られました。

10時から主催代表者の挨拶と説明後、稚魚運送車から大

阪釣船漁業協同組合の協力船へ、バケツリレーで積み込み作業を開始。新型コロナウイルス緊急事態宣言等で、毎年稚魚のバケツリレーを手伝ってくれるボーイスカウトの姿が見えないのが残念です。

稚魚は今年も元気で、バケツのなかで飛び跳ねながら放流船へ積み込まれ、稚魚が一杯になった放流船から、それぞれ指定の放流場所へ出航。一部の稚魚は、常吉大橋下へバケツリレー「早く大きくなれよ」と祈りながら放流しました。(報告 山本)



令和3年度泉南尾崎漁港水中清掃 (R3-9/4)

新型コロナウイルス感染防止対策緊急事態宣言下、清掃作業途中から小雨様子となった令和3年9月4日(土)、今年度初めての水中清掃を泉南郡尾崎漁港で実施されました。私達インストラクター7名、日本釣振興会大阪府支部のメンバー9名、協力ダイバー9名、総勢25名と、地元漁業関係者として組合の事務員さんの協力のもと、遊漁船午前便の帰港時間11時30分までに終了との予定で、帰港漁船にも注意しながら実施。主催者挨拶の後、それぞれの作業内容を確認し作業の準備。

水中清掃は水深1m弱程度しかない干潮の

時間になりましたがダイバーと地上班の作業はスムーズに行われ、海底から飲料容器のペットボトル26個、アキカン174個、ビン2個の計202個。その他、主なゴミとしてプラスチック容器30個、プラスチック片58個、網2個、バケツや手提げかばん等が回収され、総重量は30キログラムになりました。回収したゴミを指定場所に移動させ水中清掃作業は完了しました。(報告 田隅)



寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあい釣り教室 (R1-10/9)

サバの入れ食い状態で
参加者大満足



「寝屋川市スポーツ少年団親子ふれあ

い釣り教室」、昨年はコロナ禍で中止を余儀なくされ、今年も釣りがしたいとの多くの要望がありながら、第一回目8月14日(土)の予定を延期。再度9月11日(土)に開催と計画を立てましたがまたもやコロナの緊急事態宣言が発令され実施出来ませんでした。参加申し込みをしていた子供達から、教室開催の強い要望があり再度10月9日(土)を今年最後の予定として計画。

寝屋川市役所に8時に集合し開催場所の南港魚釣り園へ。

予定通り9時前に釣り場に到着、安全に釣りをするため、危険な魚、釣りマナー等の簡単な釣り教室後、ライフジャケットを着用し釣り場所である大和川河口の護岸で釣りを開始。開催月が10月という時期と開始時刻が9時30分と遅かったのも、今回は釣れな

いのではないかと懸念していましたが、釣り初めてから少し経過すると25分前後のサバが釣れだし、サバの強い引きに子供達は格闘、釣り教室に参加している保護者も昼食時間を忘れ、魚とのやり取りを体感されていました。

今回、インストラクター6名の協力で支援を行いました、引きの強いサバが2匹同時に釣れる時もある、釣り仕掛けの絡みが多発し対処するのが大変でした。

子供達の楽しんでいる声と笑顔を見ると、疲れも少なくなり最後に全員から「おっちゃん有難う」の言葉に満足し帰路につきました。

(報告 川嶋)



報告 7

日本ボーイスカウト大阪連盟かわち地区釣り章講習考査会(R3-10/17)

令和3年度の釣り章考査会は、座学を大阪府青少年ヨットハウス、実釣は昨年同様淡輪漁港で実施しました。

せんなん地区で釣り章考査会を8月8日(日)に計画していましたが、コロナ感染緊急事態宣言が発出され中止となり、今回せんなん地区での受講予定者も含め12名での実施となりました。



本年のプログラムは、ボーイスカウト大阪連盟かわち地区責任者と数回検討し、時間の短縮を図るために座学のプログラムを大幅に縮小し1時間に、座学で縮小したプログラムは事前に受講者に教材を配布し自宅で学習することになりました。実釣は従来同様3時間に。

当日は、簡易学習教材を作成し釣りの基本や用語等を説明した後、理解度テストを行いました。

実釣では、前日の天気予報では風が強いとの予報、釣り場を変更し実施しましたが、残念ながら時たまイワシが釣れる程度。強風と寒さとの我慢比べの実釣となりました。

(報告 物部)



報告 8

JAF(一般社団法人日本自動車連盟大阪支部)主催の「初心者でも楽しめるフィッシング入門in 平磯海づり公園」に協力(R3-10/23)

JAF(一般社団法人日本自動車連盟)大阪府支部主催の「初心者でも楽しめるフィッシング入門in 平磯海づり公園」に、フィッシングエイト様とインストラクター5名で参加協力しました。JAF様が初めて実施される釣り大会で、自然・命の大切さ・環境保全等について学習することを目的にこのイベントを開催。

40名の定員で募集したところ、140名を上回る申し込みがあり抽選の結果当選された方が参加されました。

釣り具・仕掛け・ライフジャケットは、平磯海釣り公園のレンタルを活用。餌は二種類でアミエビと虫エサ、わたされた参加賞の中にはガシラなどの根魚を釣る仕掛けも。JAF様からの挨拶の後、竿とリールの使用方法をフィッシングエイト、私達インストラクターは、水没事故の発生状況・ライフジャケットの重要性の説明と着用する方法を実演、また、危険な魚の写真を参加者に見てもらいながら説明。その後、釣り場に移動しフィッシング

エイト様3名と、インストラクター4名での釣り支援で実釣を開始。

釣り開始後すぐに、危険な魚の20センチ前後の「アイゴ」が釣れたとの報告があり背ビレや腹ビレをインストラクターが切取りました。その後、もう1名「アイゴ」を釣り上げタオルで覆っている所を発見し、毒の魚なので対処しますと伝え事をえました。釣果は、30センチ前後のコブダイ・ガシラ・釣り公園定番のスズメ鯛が釣れ、多くの参加者がアタリを体感することが出来ました。事故等も無く終えることが出来たことに感謝また感謝です。今回初めて釣りをされた方が休憩されていたので、釣りについての感想を聞きました。「まず、前が全部海で、すがすがしい気分になっています。

魚が掛かった時の竿から伝わる振動を体験することが出来て嬉しかった。釣りにはまりそうです」とのことでした。(報告 物部)



報告 9

2021水辺環境保全活動に協力 ◆◆夢舞大橋下を清掃◆◆(R3-12/4)

釣り教室などで利用している、大阪港の立入禁止としない区域(釣り開放区)のひとつである北港夢舞大橋下でおこなわれた日本釣振興会大阪府支部主催の水辺環境保全活動に、JOFI大阪メンバー5名を含む58名の協力者が集り清掃作業を行いました。清掃活動は9時から10時30分までの短い時間ですが今年の清掃作業の中身は非常に濃い内容になりました。大橋下の不法投棄など、

大量のゴミがあったこともあり、それほど広い範囲でないにもかかわらず相当な量(約600kg)になりました。当日たくさんの釣り人がいましたが、ゴミを拾う私たちの姿を見ても協力者は一人もおられませんでした。少し虚しさを感じる「水辺環境保全活動」の参加でした。(報告 中島)



舞洲緑地C護岸でのファミリー海釣り大会2021に協力(R3-10/24)

大阪北港舞洲緑地C護岸で開催のファミリー海釣り大会への応援依頼が、日本釣振興会大阪府支部からあり5名が参加しました。

当日の海釣り大会への参加者は92名、内訳は大人50名と子供40名引率者2名

インストラクターの集合時間は6時30分、全員が6時頃に到着し、招待者9名の子供達が使う釣具の準備にかかりました。

天気も良く、前日から徹夜の方を含め、早朝から釣り場は多くの人で賑わっています。

大会前の竿やリールとエサの準備中、招待者の釣り場付近にはイワシが沢山泳いでいましたが、招待の子供達が到着した頃には見えなくなっていました。

急いで実釣前にルールやマナー安全確保「自分の命は自分が守る」についての勉強。続いて、竿とリールの使用方法を説明、持参したライフジャケットを全員が着用し釣りに入りましたが、釣れる魚

は少なく時たまイワシがかかる程度で、招待された子供達も手持無沙汰となりました。

魚のつれない時間を利用し自然保護、環境に関心を持ってもら



いたいとの目的で水質調査を実施しました。

インストラクターが、護岸から透明度を測定し、海水を汲み表層や海底の水温・酸素濃度や・Phなどの水質調査を行い、大阪湾の実態を知ってもらおうと共に、魚がどのような場所を好んで棲んでいるのか等を説明しました。今回、初心者の子供達が多く、仕掛けの絡みやリール使用でトラブル発生時の対処支援も行いました。

11時30分から検寸が始まり、釣れた最長の魚を参加者は提出し検寸。招待者の子供達も釣れたイワシを各々提出し、表彰式の発表を待ちました。

表彰式では、魚種ごと入賞された方に賞状と記念品が贈呈され、持ちきれないほどの記念品に受賞者は、大きな笑みがこぼれていました。

入賞者以外にも参加賞なども全員に送られ、楽しく笑顔で1日を送られていました。(報告 南)



岬町の秋を楽しむ親子ふれあい釣り教室(R3-10/31)

「第3回岬町親子ふれあい釣り教室」を㈱ライフサポート関西主催、共催の岬町観光協会や釣り場所提供の大阪府立青少年海洋センター淡輪ヨットハーバー、協賛を日本釣振興会大阪府支部、私達インストラクターの協力で開催されました。

※ 開始当初からアジが釣れる ※

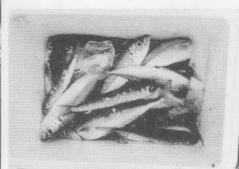
早朝から小雨の降る中、インストラクターの集合場所大阪府青少年海洋センター臨時駐車場に6時に集合し、ヨットハーバハウス階段に本部テントを準備。受付開始は7時で参加者の大半は受付を終了。

当日は個人やファミリーの参加者22名、主催者役員1名と市民サポーター1名の応援もあり、インストラクター7名の総参加者数31名で開会式を行いました。

主催者からの挨拶は「今日の天気は余り良くありません

が、海のオゾンを一呼吸取って、釣りを楽しんでください」また、インストラクターから「ライフジャケットは自分の命を守るもので着用を継続すること、危険な魚(オコゼ、ゴンズイ、ガシラ等)の扱い方」を指導しました。釣り場であるヨットハーバー桟橋に、インストラクター一人が参加者3~4名を引率し、釣り竿・バケツ・エサのアミエビを持って指定の場所に、釣り始めると直ぐにアジが入れ食いとなり全員が魚を釣ることができました。

「こんな簡単に釣れるのですか」「釣りって楽しいな」等の言葉が行きかう中、「氷を入れていない」「次に来る時はクーラーを持ってこなくては」と嬉しい悲鳴。しかし、この状態は長く続かずイワシが時たまに釣れる程度になってしまいました。2時間ほど釣りを楽しまれた後の閉会式では、楽しく釣りが出来たことに感謝してくださいと話しました。これから参加者全員でバーベキューの昼食とのことで、釣れた魚も食材の一部になるようです。皆さんご苦労様でした。(報告 高木)



本年二回目の岬町秋を楽しむ親子ふれあい釣り教室(R3-11/7)

今年2回目の「岬町親子ふれあい釣り教室」が、主催(株)ライフサポート関西、共催は、岬町観光協会・釣り場所提供の大阪府立青少年海洋センター・淡輪ヨットハーバー・日本釣振興会大阪府支部・JOFI大阪の協力で開催されました。

当日の釣り教室参加者は、近隣住民の親子と学習塾の生徒で、小学生54名、引率者・保護者の9名。釣り指導は、インストラクター11名と市民サポーター3名大会関係者5名の総勢82名で実施。

開会式では、司会の吉本博一氏(株)ライフサポート関西)から「この釣り体験で魚との触れ合いを楽しんでください」と挨拶がありました。

また、インストラクターが用意した教材「すきすきフィッシング」の冊子や「危険な魚」の写真をしながら、ハオコゼやゴンズイ・フグなどについて正しい対処の仕方・ライフジャケットの重要性・サビキ仕掛けの鉤の危険性、最後に「釣り人の命は自分で守ることが必要です」と話し講義を終了しました。保護者や引率者には「遊漁のルールとマナー」を手渡し、遊漁者の置かれている立場やマイクロプラスチック問題などについて自宅でも子供たちへの説明をお願いしました。その後、インストラクターが先導し釣り場であるヨットハーバ桟橋へ。それぞれ参

加者が、竿とリール、餌のアミエビバケツ、手洗いバケツ、持参したクーラーを持って。インストラクターの指導のもと釣りを開始。

釣り始めはアジやサバの入れ食い状態でしたが、少し経つと魚の群れが見えなくなり、忘れたところに釣れる状態になってしまいました。生きている魚に触ることのできない低学年や女性も見られましたが、フグが釣れると可愛いと言って、フグの頭をなでている子供も。

釣果は一人10匹程度、お昼を過ぎたので釣りを終了して閉会式。田中正視環境省自然公園指導員からは、持参された人形を使い「この地域の後ろは山があり、その山に広葉樹が多く植樹され、降った雨が地下水を経由し栄養豊富な水が川に集められ海へと流れ込み、多くのプランクトンが生まれている湾となっているので、いろいろな魚類がたくさん集まってくる自然豊かな場所です。」「山にはいろいろな動物が生息し自然豊かなこの岬町にまた来てください。」と締めくくられました。

(報告 高木)



大阪府泉南郡忠岡町の社会実験第一弾「忠岡新浜緑地・新浜護岸」でのアーバンアウトドア&フィッシングフェスに出店(R3-11/20・21)

「忠岡町社会実験プロジェクト」は、町内の緑地やオープンスペースを、日常的に人が集い、忠岡町の魅力発信につながる賑わい空間とするために、住民や民間事業者による多様な活用可能性を検証し、「みどりの基本計画」における公園・緑地の政策方針へ反映するために11月20日(土)～21日(日)に実施。全日本釣り団体協議会から、「新浜護岸でフィッシング等の社会実験」を行われるとの連絡があり、JOFI大阪も、大阪湾の釣り場拡大を望んでいることから、現在閉鎖されている釣り場の解放や、釣り公園を設置するための条件等を提案できることから出店を決定。今回の出店には「釣りを安全に行う講習会」を企画し、「釣りに少し興味を持っておられる人」「釣りを始めたいがどうすれば良いのかを考えている人」「釣りに行ったが上手く釣行出来なかった人」を対象に。内容は、「釣りの基本マナーとルールの習得」「危険な魚種と釣り人の事故発生内容」「大阪湾水質からの問題意識喚起」最後に実習として「八の字結び・電車結び・サルカンと糸の結び方」等を、午前と午後に1回。各会ともに実習を予定し、定員10名とし1日の受講者数20名で計画。



・20日(土)の状況

会場は、新浜護岸の釣り場に設営されたので、釣を楽しみに来られた人達がブース前を通過されるだけでなかなか受講者は見つかりませんでした。松林や岸壁を散策されている方に声をかけ、13名の方に受講して頂くことが出来ました。

・21日(日)の状況

5名の受講者がおられたので、11時から一回目の講習会を開催しました。開催と同時に、予想外の受講申し込みが多数あり、定員の10名に達してしまいました。午後部の講習会の方法を変更し、家族や友人グループごとにインストラクターが説明を行うようにし、定員をオーバーする15名の方に説明をすることができました。最後の講習会ではグループごとに対応したので「資源管理」遊漁者のクロマグロ釣果状況「資源保護」大阪湾での小型魚の再放流「ゴミ問題」SDGsの海底ゴミやマイクロプラスチック、大阪湾の水質等の問題まで拡大し意見交換をすることが出来、釣りをされない方も遊漁についていろいろな意見をお持ちの方が多く、気付かされた大変有意義な両日でした。(報告 物部)

